

エコアクション21

# 環境活動レポート

2017年度

2017年9月1日～2018年8月31日

2019年1月 改訂

株式会社野生動物保護管理事務所

## 目次

1. 組織の概要 .....	2
2. 対象範囲・環境管理実施体制表.....	3
3. 環境方針 .....	5
4. 基準年の環境負荷と環境目標 .....	6
5. 環境活動計画・環境目標の実績及び環境活動計画の取組結果とその評価並びに次年度の取組内容 .....	9
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無.....	13
7. 代表者による全体評価と見直しの結果.....	14

## 1. 組織の概要

### (1) 対象事業所及び代表者氏名

株式会社野生動物保護管理事務所

代表取締役 濱崎 伸一郎

環境管理責任者	岡野 美佐夫（総務部長）
環境管理担当者	小黒 大貴（全社）

#### ①事業所名：本社（計画策定支援室・遺伝情報解析室・総務部）

所在地：東京都町田市小山ヶ丘1-10-13

環境管理責任者	岡野 美佐夫（総務部長）
調査研究部門責任者	奥村 忠誠（本社事業部長）
環境管理担当者	小黒 大貴
連絡先	電話：042-798-7545 E-mail：okano_m@wmo.co.jp

#### ②事業所名：関西分室

所在地：兵庫県神戸市北区有野町有野 3457-1

環境管理責任者	岡野 美佐夫（総務部長）
調査研究部門責任者	岸本 真弓（関西分室長）
環境管理担当者	井ノ口 直美
連絡先	電話：078-982-3340 E-mail：okano_m@wmo.co.jp

(2) 事業活動の内容

- ・野生鳥獣の保護に関する基礎調査
- ・野生鳥獣の被害防除に関する基礎調査
- ・野生鳥獣保護事業に関するコンサルタント

(3) 事業の規模

売上高：6.77 億円（2017 年度）

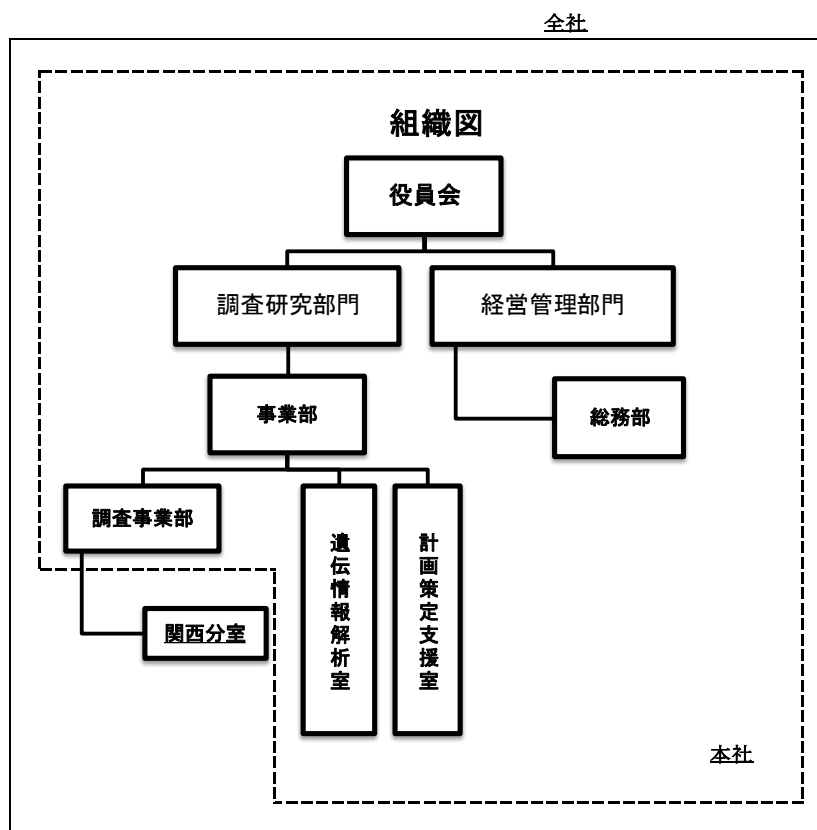
会計年度：当該年度 9 月～翌年 8 月

	本社	関西分室
従業員数（人）	32	22
延床面積（㎡）	198.4	318.94
売上	3.63 億円	3.14 億円

2. 対象範囲・環境管理実施体制表

(1) 認証・登録対象組織

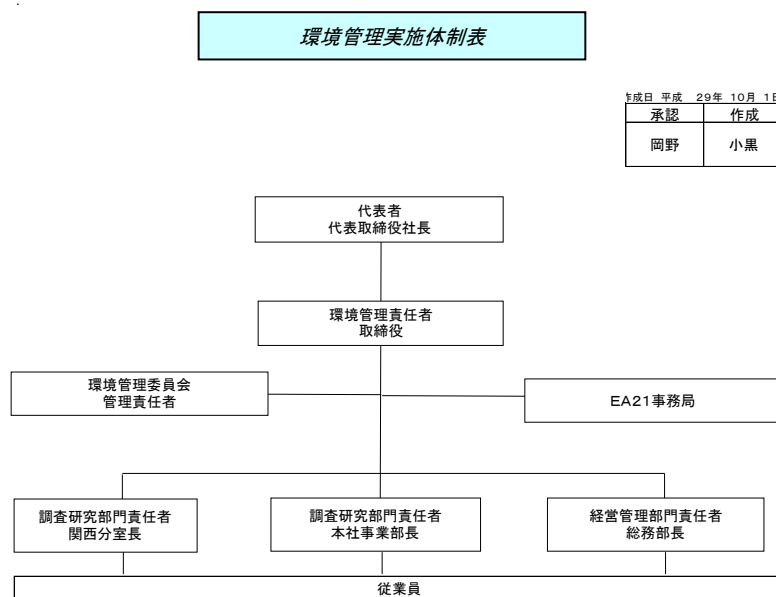
全社・全組織



(2) 認証・登録対象活動

- ・野生鳥獣の保護に関する基礎調査
- ・野生鳥獣の被害防除に関する基礎調査
- ・野生鳥獣保護事業に関するコンサルタント

(3) 環境管理実施体制表



役職	責任および権限
代表取締役社長	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 諮問機関である環境管理委員会の委員長として委員会の運営 4. 推進機関であるEA21EMSの事務局の責任者として事務局運営 5. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施 6. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 7. 環境関連文書及び記録の作成・整理
EA21事務局	1. 環境管理責任者の補佐
環境管理委員会	1. 環境活動計画の審議 2. 環境活動実績の確認・評価
部門責任者	1. 環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善 2. 環境上の緊急事態への準備及び対応
従業員	1. 環境活動計画に基づく各種取組の実施

(回覧ルート)

社長→部門責任者、環境管理責任者

改版履歴

版数	改定理由	改定月日	承認	作成者
第1版	初版を作成	2014/10/1	羽澄	岡野
第2版	社内組織・名称改編に伴い作成	2015/10/1	岡野	小黑
第3版		2017/10/1	岡野	小黑

### 3. 環境方針

## 株式会社野生動物保護管理事務所の環境方針

### 基本理念

株式会社野生動物保護管理事務所は、生物多様性条約の理念にのっとり、野生動物の保護管理を推進するために活動しております。人口減少時代に向かう中、増大する野生動物と人の軋轢に対処するべく、社会に貢献してまいります。さらに、温暖化をはじめとする、人間活動による地球環境全体への影響は、野生生物にも少なからず影響が及んでいる現状があることから、自らの事業運営にあたっては、環境に配慮し、循環型社会の実現に貢献してまいります。

### 環境方針

1. 環境関連法規制を遵守します。
2. 電気・水道水・電力及び燃料使用の省エネルギーに取り組み、二酸化炭素排出量の削減を推進します。
3. 事業活動に伴う廃棄物の削減に努め、再使用、再生利用の推進に努めます。
4. 事業活動に伴う薬品の適切な使用・保管・廃棄に努めます。
5. グリーン購入を積極的に推進します。
6. 事業活動を通じて、生物多様性保全の推進に努めます。

平成27年9月1日制定

株式会社野生動物保護管理事務所

代 表 取 締 役

濱崎伸一郎

#### 4. 基準年の環境負荷と環境目標

##### ① 全社

環境目標		単位	基準年	年度目標	中期目標		
			<small>本社：2013年度(2013年9月～2014年8月)分室：2014年度(2014年9月～2015年8月)</small>	<small>2017年度 17年9月～ 18年8月</small>	<small>2018年度 18年9月～ 19年8月</small>	<small>2019年度 19年9月～ 20年8月</small>	<small>2020年度 20年9月～ 21年8月</small>
1 排出量の削減 二酸化炭素	①電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	41,152	38,306	37,540	36,789	36,053
		(kg-CO <sub>2</sub> )	21,402	19,919	19,521	19,131	18,748
	②ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	49,306	47,705	47,228	46,755	46,288
	(kg-CO <sub>2</sub> )	114,472	110,755	109,647	108,549	107,465	
	③二酸化炭素総排出量の削減	(kg-CO <sub>2</sub> )	135,902	130,701	129,195	127,707	126,240
2 廃棄物の削減 排出量	①一般廃棄物 (前年度比3%削減)	kg	2,586	2,322	2,252	2,185	2,120
	②産業廃棄物 (前年度比1%削減)	kg	2,129	2,051	2,030	2,009	1,989
3 水の資源量の削減 (前年度比2%削減)		m <sup>3</sup>	205	193	190	187	184
4 コピー紙使用料の削減 (前年度比2%削減)		kg	673	625	613	601	589
5 グリーン購入 (前年度比3%増)		品目数	105	116	120	124	128
6 製品及びサービスに関する項目 (前年度比1%増)		受託業務 件数	147	155	157	159	161

本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:0.525kg-co2/kWh  
 分室購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数:0.514kg-co2/kWh  
 本社LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。分室LPG使用なし

②本社

目的	単位	基準年 (2013年度)	年度目標	中期目標			
		13年9月～14年8月	2017年度 17年9月～ 18年8月	2018年度 18年9月～ 19年8月	2019年度 19年9月～ 20年8月	2020年度 20年9月～ 21年8月	
1 排出量の削減 二酸化炭素	①電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh  (kg-CO <sub>2</sub> )	22,670  11,902	20,911  10,978	20,493  10,759	20,083  10,544	19,681  10,333
	②ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L  (kg-CO <sub>2</sub> )	14,045  32,608	13,492  31,324	13,357  31,010	13,223  30,699	13,091  30,393
	③二酸化炭素総排出量の削減	(kg-CO <sub>2</sub> )	44,538	42,329	41,796	41,270	40,753
2 廃棄物の削減 排出量	①一般廃棄物 (前年度比3%削減)	kg	1,413	1,251	1,213	1,177	1,142
	②産業廃棄物 (前年度比1%削減)	kg	1,530	1,470	1,455	1,440	1,426
3 水の資料量の削減 (前年度比2%削減)	m <sup>3</sup>	75	71	70	69	68	
4 コピー紙使用量の削減 (前年度比2%削減)	kg	500	461	452	443	434	
5 グリーン購入 (前年度比3%増)	品目数	24	28	29	30	31	
6 製品及びサービスに関する項目 (前年度比1%増)	受託業務 件数	48	53	54	55	56	

購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数:0.525kg-co<sub>2</sub>/kWh  
 本社LPG使用量は、少量なので維持管理項目とし、表記省略。分室LPG使用なし

③関西分室

目的		単位	基準年 (2014年度)	年度目標	中期目標		
			14年9月～15年8月	2017年度 17年9月～ 18年8月	2018年度 18年9月～ 19年8月	2019年度 19年9月～ 20年8月	2020年度 20年9月～ 21年8月
1 排出量の削減 二酸化炭素	①電気使用量の削減 (前年度比2%削減)	kWh	18,482	17,395	17,047	16,706	16,372
		(kg-CO <sub>2</sub> )	9,500	8,941	8,762	8,587	8,415
	②ガソリン使用量の削減 (前年度比1%削減)	L	35,261	34,213	33,871	33,532	33,197
		(kg-CO <sub>2</sub> )	81,864	79,431	78,637	77,850	77,072
	③二酸化炭素総排出量の削減	(kg-CO <sub>2</sub> )	91,364	88,372	87,399	86,437	85,487
2 廃棄物の削減 排出量	①一般廃棄物 (前年度比3%削減)	kg	1,173	1,071	1,039	1,008	978
	②産業廃棄物 (前年度比1%削減)	kg	599	581	575	569	563
3	水の資料量の削減 (前年度比2%削減)	m <sup>3</sup>	130	122	120	118	116
4	コピー紙使用料の削減 (前年度比2%削減)	kg	173	164	161	158	155
5	グリーン購入 (前年度比3%増)	品目数	81	88	91	94	97
6	製品及びサービスに関する項目 (前年度比1%増)	受託業務 件数	99	102	103	104	105

購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数:0.514kg-co2/kWh  
分室LPG使用なし



## 5. 環境活動計画・環境目標の実績及び環境活動計画の取組結果とその評価並びに次年度の取組内容

### ① 全社

2017年8月～2018年8月		○=達成 ×=未達成				
No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達成原因・達成理由	是正措置 / 改善施策(次年度の取組内容)
1①	(電力の削減)	42,401 kWh	×	111	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・不要照明の消灯の励行 ・パソコン、コピー機の主電源OFFの励行 ・労務管理の改善による夜間残業時間の軽減
	目標: 前年比2%削減 39,088 kWh ↓ 目標: 38,306 kWh					
1②	(ガソリン使用量の低減)	48,031 L	×	101	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・従業員へのエコドライブ普及啓発、教育指導を強化 ・エコカー(移動用・軽作業用)の配備を検討 ・公共交通機関の利用促進
	目標: 前年比1%削減 48,187 L ↓ 目標: 47,705 L					
1③	二酸化炭素削減	133,574 kg-CO2	×	102	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・1①,1②の改善施策の推進
	132,227 kg-CO2 ↓ 目標: 130,701 kg-CO2					
2①	一般廃棄物排出量削減	1,977 kg	○	85	・事業規模(従業員数・受注量)の増加に伴い、社外業務が増加	・リサイクルの推進 ・乾電池の再利用の推進 ・計画的な物品購入の励行 ・紙類の分別によるリサイクル推進
	目標: 前年比3%削減 2,394 kg ↓ 目標: 2,322 kg					
2②	産業廃棄物排出量削減	2,454 kg	×	120	・大規模な社内環境整備の実施(本社)	・不要な廃棄物となるべく排出しないプロジェクト運営の推進 ・再利用の励行
	目標: 前年比1%削減 2,072 kg ↓ 目標: 2,051 kg					
3	排水量削減	295 m <sup>3</sup>	×	153	・事業規模(従業員数)の増加 ・社有車台数の増加に伴う洗車回数の増加	・節水を心掛ける
	目標: 前年比2%削減 196 m <sup>3</sup> ↓ 目標: 193 m <sup>3</sup>					
4	コピー紙使用量の削減	865 kg	×	138	・会議運営等事業(検討会、研修会等)の受注量の増加により外部に配布する会議資料部数が増加した	・資料枚数の軽減の工夫 ・裏紙の利用を推進 ・両面印刷を徹底する ・社内資料のペーパーレス化の促進
	目標: 前年比2%削減 637 kg ↓ 目標: 625 kg					
5	グリーン購入	104 品目	×	90	・可能な限りグリーン購入法に基づく物品の購入に努めたが、目標の達成には至らなかった。	・グリーン購入法に基づく物品をリスト化し、従業員に対して該当品目の購入を指示する
	目標: 前年比3%増 112 品目 ↓ 目標: 116 品目					
6	製品及びサービスに関する項目(環境配慮)	180 件	○	116	・行政機関からの需要が増加	・取組の継続
	目標: 前年比1%増 153 件 ↓ 目標: 155 件					

注: 化学物質(PRTR法対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。  
 本社購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数: 0.525kg-co2/kWh  
 分室購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数: 0.14kg-co2/kWh

②本社

2017年8月～2018年8月 ○=達成 ×=未達成

No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達成原因・達成理由	是正措置 / 改善施策(次年度の取組内容)
1①	(電力の削減)	22,997 kWh	×	110	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・不要照明の消灯の励行 ・パソコン、コピー機の主電源OFFの励行 ・労務管理の改善による夜間残業時間の軽減
	目標: 前年比2%削減 21,338 kWh ↓ 目標 20,911 kWh					
1②	(ガソリン使用量の低減)	14,455 L	×	107	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・従業員へのエコドライブ普及啓発、教育指導を強化 ・エコカー(移動用・軽作業用)の配備を検討 ・公共交通機関の利用促進
	目標: 前年比1%削減 13,628 L ↓ 目標 13,492 L					
1③	二酸化炭素削減	45,648 kg-CO2	×	108	・事業規模(従業員数・受注量)の増加	・1①,1②の改善施策の推進
	42,869 kg-CO2 ↓ 目標 42,329 kg-CO2					
2①	一般廃棄物排出量削減	852 kg	○	68	・事業規模(従業員数・受注量)の増加に伴い、社外業務が増加	・リサイクルの推進 ・乾電池の再利用の推進 ・計画的な物品購入の励行
	目標: 前年比3%削減 1,290 kg ↓ 目標 1,251 kg					
2②	産業廃棄物排出量削減	2,430 kg	×	165	・大規模な社内環境整備の実施	・不要な廃棄物をなるべく排出しないプロジェクト運営の推進 ・再利用の励行
	目標: 前年比1%削減 1,485 kg ↓ 目標 1,470 kg					
3	排水量削減	160 m <sup>3</sup>	×	225	・事業規模(従業員数)の増加	・節水を心掛ける
	目標: 前年比2%削減 72 m <sup>3</sup> ↓ 目標 71 m <sup>3</sup>					
4	コピー紙使用量の削減	747 kg	×	162	・会議運営等事業(検討会、研修会等)の受注量の増加により外部に配布する会議資料部数が増加した	・資料枚数の軽減の工夫 ・裏紙の利用を推進 ・両面印刷を徹底する ・社内資料のペーパーレス化の促進
	目標: 前年比2%削減 470 kg ↓ 目標 461 kg					
5	グリーン購入	30 品目	○	107	・グリーン購入法に基づく物品を意識し、優先して購入した	・グリーン購入法に基づく物品をリスト化し、従業員に対して該当品目の購入を指示する
	目標: 前年比3%増 27 品目 ↓ 目標 28 品目					
6	製品及びサービスに関する項目(環境配慮)	63 件	○	119	・行政機関からの需要が増加	・取組の継続
	目標: 前年比1%増 52 件 ↓ 目標 53 件					

注: 化学物質(PRR法対象のもの)を使用していないので環境目標から外した。  
購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数: 0.525kg-co2/kWh

### ③関西分室


2017年9月～2018年8月		○=達成 ×=未達成				
No.	推進項目	結果	評価	達成率(%)	未達成原因・達成理由	是正措置 / 改善施策(次年度の取組内容)
1①	<b>(電力の削減)</b> 目標: 前年比2%削減 17,750 kWh ↓ 目標 17,395 kWh	19,404 kWh	×	112	・事業規模(従業員数・受注量)の増加 ・夏季はエアコンの使用許可を30℃、設定温度28℃としていたため初動運転による電力消費が増加したと考えられる。	・不要照明の消灯の励行 ・パソコン、コピー機の主電源OFFの励行 ・労務管理の改善による夜間残業時間の軽減 ・エアコンの使用許可温度と設定温度を合わせる
1②	<b>(ガソリン使用量の低減)</b> 目標: 前年比1%削減 34,559 L ↓ 目標 34,213 L	33,576 L	○	98	・調査員の配車の工夫、電車の利用、エコドライブの推進等によりガソリン使用量が減少した	・従業員へのエコドライブ普及啓発、教育指導を強化 ・エコカー(移動用・軽作業用)の配備を検討 ・公共交通機関の利用促進
1③	<b>二酸化炭素削減</b> 89,358 kg-CO2 ↓ 目標 88,372 kg-CO2	87,926 kg-CO2	○	99	・ガソリン使用量の減少	・1①,1②の改善施策の推進
2①	<b>一般廃棄物排出量削減</b> 目標: 前年比3%削減 1104 kg ↓ 目標 1071 kg	1,125 kg	×	105	・事業規模(従業員数・受注量)の増加 ・不要な物品の購入及び廃棄があった	・リサイクルの推進 ・乾電池の再利用の推進 ・計画的な物品購入の励行 ・紙類の分別によるリサイクル推進
2②	<b>産業廃棄物排出量削減</b> 目標: 前年比1%削減 587 kg ↓ 目標 581 kg	24 kg	○	4	・調査用品の再利用(別のプロジェクトでの再利用)を推進し廃棄物を削減した	・不要な廃棄物をなるべく排出しないプロジェクト運営の推進 ・再利用の励行
3	<b>排水量削減</b> 目標: 前年比2%削減 124 m <sup>3</sup> ↓ 目標 122 m <sup>3</sup>	135 m <sup>3</sup>	×	111	・事業規模(従業員数)の増加 ・社有車台数の増加に伴う洗車回数増加	・節水を心掛ける ・洗車は必要最小限とし節水に努める
4	<b>コピー紙使用量の削減</b> 目標: 前年比2%削減 167 kg ↓ 目標 164 kg	118 kg	○	72	・裏紙の利用を推進した	・引き続き裏紙の利用を推進 ・社内資料のペーパーレス化の促進
5	<b>グリーン購入</b> 目標: 前年比3%増 85 品目 ↓ 目標 88 品目	74 品目	×	84	・可能な限りグリーン購入法に基づく物品の購入に努めたが、目標の達成には至らなかった。	・グリーン購入法に基づく物品をリスト化し、従業員に対して該当品目の購入を指示する
6	<b>製品及びサービスに関する項目(環境配慮)</b> 目標: 前年比1%増 101 件 ↓ 目標 102 件	117 件	○	115	・行政機関からの需要が増加	・取組の継続

注: 化学物質 (PRTR法対象のもの) を使用していないので環境目標から外した。  
 購入電力(関西電力)の二酸化炭素排出係数: 0.514kg-co2/kWh

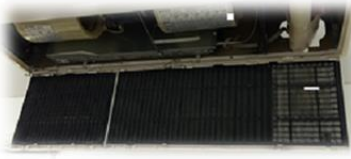

◆ 本社・関西分室での EA2 1 取組 ◆

**空調の適正化**

サーキュレーターファンの運用により、夏期・冬期ともに、極力空調設備に頼らずにすむよう室内温度の均質化を図っています。



電力使用量削減と稼働効率を上昇させるためエアコンのフィルターを定期的に清掃しています。

**紙資源の再利用**

ミスプリント紙は回収し、内部打合せ資料の印刷やメモ用紙等に再利用しています。また、使用済みの綺麗な封筒も回収し再利用しています。



段ボールや新聞は回収ボックスに持っていくことで廃棄物を減らし資源の再利用に取り組んでいます。



**資源の再利用**

アルミ缶・スチール缶・ペットボトルは回収ボックスに持っていくことで廃棄物を減らし資源の再利用に取り組んでいます。



調査機材に使用した電池はすぐに廃棄せず、電池残量をチェックした後、使えるものは色々な用途で再利用しています。



**省エネ活動**

天井からの採光や大きな窓を設置することで省電力を図っています。



給湯温度を低めに設定しています。



**太陽光発電**

太陽光発電により得た電力を事務所運営に利用しています。



**消防訓練**

活動の一環として、消防訓練を行いました。



## 6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無

法的要求事項等の名称	監視・測定項目 (適用施設・業務等)	法的要求事項の内容及び基準	監視・測定プロセス、 使用機器等	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃プラスチック類、 金属くず、ゴム屑、 ガラスくず及び陶磁器くず、 廃酸、廃アルカリ 感染性廃棄物	産業廃棄物保管基準の遵守	—	○
		産業廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	委託契約書	○
		特別管理産業廃棄物保管基準の遵守	—	○
		特別管理産業廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	委託契約書	○
		特別管理産業廃棄物管理責任者の設置	—	○
		産業廃棄物管理票交付等状況報告書	—	○
		産業廃棄物管理票による管理	マニフェスト伝票	○
フロア排出抑制法	業務エアコン、冷凍冷蔵庫	廃棄の場合のフロアの適切な処置 簡易点検	—	○
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、 冷蔵庫、洗濯機、電気冷蔵庫	特定家庭用機器の長時間使用と適切な廃棄	—	○
自動車リサイクル法	普通自動車	自治体の登録を受けた引取業者への廃車の引渡し義務 新車購入時又は車検時における再資源化等料金(リサイクル料金)等の預託	—	○
グリーン購入法		環境物品等の調達努力	—	○
毒物及び劇物取締法	硝酸	毒物及び劇物についての取締の遵守	管理帳簿・MSDS	○
麻薬及び向精神薬取締法	ケタミン	麻薬及び向精神薬についての取締の遵守 麻薬研究者の届出	管理帳簿・MSDS	○
消防法		消火器の設置、火災警報設備の設置	—	○
生物多様性基本法		事業者の責務（事業活動を行うに当たって、事業活動が生物の多様性に及ぼす影響を把握するとともに、他の事業者その他の関係者と連携を図りつつ生物の多様性に配慮した事業活動を行うこと等により、生物の多様性に及ぼす影響の低減及び持続可能な利用に努めること）等	—	○
環境基本法		事業者の責務（事業活動を行うに当たって生ずるばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するために必要な措置を講ずること、環境の保全上の支障を防止するため、物の製造、加工又は販売その他の事業活動を行うに当たって、その事業活動に係る製品その他の物が廃棄物となった場合にその適正な処理が図られることとなるように必要な措置を講ずること、環境への負荷の低減その他環境の保全に自ら努めること）	—	○
自然環境保全法		自然環境の適正な保全が図られるように努めること、自然環境の保全に当たって、関係者の所有権その他の財産権を尊重するとともに、国土の保全その他の公益との調整に留意すること、原生自然環境保全地域・自然環境保全地域の保護規制の遵守	—	○
自然公園法		自然公園の保護及び利用の規制の遵守	—	○
鳥獣保護管理法		鳥獣の捕獲等々の規制(捕獲許可申請)、狩猟免許	—	○
外来生物法		特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬、輸入その他の取扱いに関する規制の遵守、特定外来生物の防除	—	○
種の保存法		個体等の取扱いに関する規制の遵守	—	○
文化財保護法		現状変更等の制限(現状変更許可申請)	—	○
森林法		保安林における制限(保安林内作業許可申請)	—	○

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟は過去3年間ありません。

並びに関係当局よりの違反等の指摘も過去3年間ありません。又、近隣からの苦情等はありません。

## 7. 代表者による全体評価と見直しの結果

### (1) 全体評価

エコアクション 21 の導入開始から本社では 5 年、関西分室では 4 年が経過しました。この間、各環境目標項目について目標を設定し、環境負荷軽減に取り組んできました。会社の取り組みとしてできること、社員一人一人の意識向上により実現できることを具現化しつつ相応の実績を上げてきましたが、今後より具体的にに取り組んでいくことにより、さらなる実績を上げることが可能と考えます。

各環境目標項目については、目標を達成できなかった項目も多い結果となりましたが、これには業務量（売上高）の増大、それに伴う社員数の増加など、会社規模の拡大の影響も少なくなさそうです。各目標項目について、関連の高そうな原単位（売上高、従業員数）で換算してみたところ、ほとんどの項目で直近 2 年間の実績で減少していることがわかりました。今後は、より現実的かつ実効性のある取り組みを進めるために、原単位換算した数値目標をベースに具体的な目標設定と計画策定を行い、成果をよりわかりやすい形で説明できるように仕組みを整えていきます。

### (2) 見直しの結果

- ① 電力使用量については目標を達成できなかった。従業員数の増加による影響も少なくないと考えられるが、エアコン設定温度の適正化、不要照明の消灯徹底などのさらなる努力によって削減に努めていく。また、業務効率化による社員一人あたりの就業時間の低下による削減が期待できることから、会社としての取り組みを加速していく。
- ② ガソリン使用量については、関西分室は目標値を達成できたが、本社は達成できず、全体として目標にわずかに届かなかった。当社の業務上、自動車の利用頻度は高く、環境負荷の原因となる大きな要素である。したがって、社員の意識向上を図ってエコドライブの励行をより具体的に進めるとともに、公共交通機関の利用促進に努める。また、会社としては燃費性能の優れた自動車を導入していく。
- ③ 廃棄物排出量については、一般廃棄物の目標は達成したが、産業廃棄物は目標を大きく超過してしまった。これは今期実施した本社の社内環境整備に伴う不要資材の廃棄が原因として大きい。一時的な要因と評価しているが、業務に必要な資材など計画的な購入とリサイクルにより削減を図る。さらに機材の適切な使用方法の周知によって耐用年数を高めるなど、モノを大切にす意識向上も図っていく。
- ④ 水使用量の削減は、本社、関西分室ともに目標を達成できなかった。従業員数の増加、社有車数増による洗車回数の増加が主な原因と考えられるが、さらに節水意識を高めていく。また、原単位換算した数値目標に移行することによって、着実な成果を感じられる仕組みにしていく。
- ⑤ コピー紙使用量については、本社の使用量が大幅に増大したため目標を達成できなかった。これは、本社業務において、大量の資料印刷が必要とされる業務が増加したこ

とが原因と考えられる。資料の最適化の努力、両面印刷の徹底などにより削減に努めていく。また、社内資料においては裏紙利用を徹底するとともに、ペーパーレス化を促進する。

- ⑥ グリーン購入については、本社では目標を達成したが、関西分室では達成できなかった。関西分室の購入項目は本社の8割程度にとどまっているため、グリーン購入法に基づく物品をリスト化し、該当品目の購入を促進する。
- ⑦ 次年度のEA21環境経営システムの変更可否判断

環境方針、環境目標、環境活動計画等のEA21環境経営システムの大きな方向性は変更しない。ただし、次年度はエコアクション21ガイドライン2017年版に基づく移行審査を控えるため、ガイドライン2017年度版に沿った取り組みを開始する。また、原単位換算した数値目標に移行し、より効果的かつ現実的な取り組みに繋げていく。

### (3) 今後の取り組み

環境方針に示しているとおり、当社は適切な野生動物保護管理の推進を通して我が国の生物多様性保全を図り、社会に貢献することを基本理念としています。しかし、これらの業務の遂行においても環境負荷の発生は避けられません。必要なことは環境負荷を可能な限り低減する意識の醸成と行動であり、事業運営にあたっては環境に最大限配慮していく必要があります。

今期は本社の移転を控えており、移転に伴う産業廃棄物の増大が見込まれますが、可能な限りリサイクルによる再利用を図っていきます。また、会社規模が拡大することから電力使用量等も増加する可能性が高いですが、リフォームにあたっては全照明のLED化などエネルギー効率の高い製品の導入に取り組みます。